

ふるさと発見！（小・中学生向け） がくふ はまぼろ学府

〈 地区・世帯数・人口 〉 令和元年10月現在

ふくで 福田地区(福田小学校区)	5,757世帯	14,726人
とよはま 豊浜地区(豊浜小学校区)	1,066世帯	2,935人
合計	6,823世帯	17,661人

福田地区と豊浜地区から成るはまぼろ学府は、太田川下流の西側に「元島遺跡」が出土し、古代から集落があったといわれる地域です。全体が海に面した地域で、海産物が豊富にとれます。さらに太田川が運ぶ肥よくな土地には、様々な農作物が実ります。豊かな自然に恵まれたはまぼろ学府について、くわしく調べてみましょう。



★はまぼろ学府全体を調べる資料は

- ・『福田町史』（全館）
- ・『福田町の歴史』（全館）
- ・『いわた ふるさと散歩 福田編』（全館）
- ・『磐田市HP』



● 海と河川 水産業と農業 → ② ③ 《新鮮な果物や海産物がいっぱい》

福田・豊浜のはまぼろ学府は地域全体が海に面して海産物に恵まれた場所です。また太田川沿いの平野は、河川がもたらす豊かな土と、遠州灘の温暖な気候で、メロンの栽培に大変適しています。高価なメロンは大都市の中間に位置する遠州地域から出荷するには大変便利です。生産は向上し、はまぼろ学府地域の大きな収入源となりました。

福田漁港を中心とした海岸はシラス漁に代表される水産業が盛んで、海浜公園なども備えました。渚の交流館も開設され、ふれあい漁港として親しまれています。

★はまぼろ学府の水産業・農業について調べるには

- ・『遠州の地場産業』（全館）
- ・『わたしたちの磐田』（全館）
- ・『磐田の産業』（全館）
- ◎渚の交流館 <http://iwata-nagisa.com/>

● 歴史の原点 元島遺跡 → ④

太田川河川改修の発掘調査により、元島地区に住居跡等が多数発見されました。弥生時代から江戸時代までの遺跡です。弥生時代中期の集落で使用されたとみられる土器が多数出土しています。さらに鎌倉時代から室町時代の貴重な遺物も多数見つっています。たとえば輸入の器や高級なうるしをぬった器等も出土しています。中世の都市として栄えた見付宿や、太田川・原野谷川流域集落への物資や人の配送センターとして、重要な役割を担ったとされる港湾遺跡です。

これにより弥生時代中期以降には海面が低下して集落ができたと考えられます。弥生時代後期には土器の発見が少なくなり、再び海面が上昇し住める環境ではなくなったようです。さらに鎌倉時代には大地震に伴う河川の流れの変化など、集落の形成は地形の変動に影響されました。

★元島遺跡について調べるには

- ・『水運の拠点から織物の町へ』（全館）
- ・『私たちの福田第2集 史跡をたずねて』（全館）



● 県指定有形文化財 → ⑤ ⑥

豊浜地区には貴重な県指定有形文化財が保管されています。
絹本著色釈迦十六善神画像

中央に釈迦、左右に菩薩、周りに十六善神が置かれています。絹本とは絹の布に書かれた書画で鎌倉時代の貴重な作品です。

中野白山神社に保管されています。⑤ 鱧口

神社や寺院につるされる円形のドラのようなもので、綱で打ち鳴らしお祈りします。県内で5番目に古く、南北朝時代の1360（延文5）年という年号が刻まれています。

大島公民館で保管されています。⑥

★豊浜地区文化財について調べるには

- ・『磐田の文化財』（全館）
- ・『史跡をたずねて』（全館）
- ・『磐南文化 第13号』（全館）

● 俳人 早苗庵知碩 → ⑦

本名加藤多陰（1814-1901）福田中野に生まれました。若い頃から農業のかたわら柿園嵐牛に学び、後年、柿園嵐牛門下の四天王の一人となり、東西に名を広め、人々に尊敬されて門人数百人を育てたといわれています。1901（明治35）年に門弟たちによって句集が発行されました。知碩の句は見付の見性寺や中野公民館の句碑に残されています。

★早苗庵知碩について調べるには

- ・『史跡をたずねて』（全館）
- ・『加藤知碩集』（全館）
- ・『磐田市の歌碑・句碑を訪ねて』（全館）
- ・『磐南文化 第5号・28号』（全館）
- ・『郷土の先覚者たち』（中央・福田・竜洋）

● 近代の織物産業 → ① 《機織りの音が響く町》

寺田彦左衛門という人が、奈良へ旅の途中に足袋底用雲斎織という織り方の手法を見て持ち帰り、自宅で織ったことが始まりと伝えられます。その後寺田市十が別珍・コール天（ベルベット・コードデュロイ）の製造方法について研究開発に取り組み、1913（大正2）年に別珍の製織方法を開発し、各工場に採用されました。さらに第一次世界大戦の軍需物資の需要が急増したのに伴い、織物にも専門工場が現れ急成長しました。やがて織物工場は福田地区の一大工業地帯へと発展します。最盛期には町中に機織りの音が響きました。

現在、福田地区を中心とした遠州地域は、別珍・コール天の国内主要産地です。また綿や麻、特殊な繊維も織られています。福田のコードデュロイハウスでは遠州産の生地や洋服・小物類など、様々な製品の展示販売を行っています。手織り体験なども行われ、磐田市の繊維展示交流施設として広く繊維の情報を発信し、織物の歴史や技術を紹介しています。

寺田市十について（1863-1924）

コール天織物から織物業を始め、別珍の研究を進めました。別珍においては全国特産品博覧会で一等金賞をとるなど福田の織物産業に大変貢献しました。その功績をたたえ記念碑が建てられました。

★はまぼろ学府の織物産業や寺田市十について調べるには

- ・『水運の拠点から織物の町へ』（全館）
- ・『わたしたちの磐田』（全館）
- ・『私たちの福田第1集 郷土の先覚者たち』（中央・福田・竜洋）
- ・『福田町織物沿革誌』（中央・福田・豊岡）
- ・『磐田の記録写真集 第二集 磐田の産業』（全館）
- ・『郷土の発展に尽くした人々 下』（全館）

◎コードデュロイハウス <http://cdhouse.hamazo.tv/>